

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 4 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 12 日 (2006.1.12)

【公開番号】特開 2000-276834(P2000-276834A)
 【公開日】平成 12 年 10 月 6 日 (2000.10.6)
 【出願番号】特願 平 11-76599
 【国際特許分類】

G 1 1 B 19/02 (2006.01)

G 1 1 B 20/10 (2006.01)

【F I】

G 1 1 B 19/02 5 0 1 Q

G 1 1 B 20/10 F

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 11 月 22 日 (2005.11.22)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 9
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 9】

そして、上記 I S R C を構成するデータ I 1 ~ I 12 のうち、I 1 ~ I 5 はそれぞれ 6 ビットより成り、図 10 に示すようにしてその値に対応する文字の対応がフォーマットで規定されている。I 6 ~ I 12 はそれぞれ 4 ビットとされて B C D による表現が行われる。また、I 1 ~ I 5 及び I 6 ~ I 12 の間には、2 ビットの ' 0 ' の区間が挿入される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 1 2 0
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 0】

ステップ S 2 0 5 においては、上記ステップ S 2 0 4 にて検出した I S R C と、現在の I S R C 管理テーブル 2 9 の内容とを参照して、検出された I S R C と一致する I S R C が I S R C 管理テーブル 2 9 に格納されているか否かを判別する。

ここで、肯定結果（現トラックと同一のトラックが、現時点から遡ってタイマ時間（7 4 分）以内に高速ダビングされている場合に対応する）が得られればステップ S 2 0 9 に進むが、否定結果（現トラックと同一のトラックは、現時点から遡ってタイマ時間（7 4 分）以内には高速ダビングされていない場合に対応する）が得られた場合にはステップ S 2 0 6 の処理に進むようにされる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 1 2 3
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 3】

また、先のステップ S 2 0 5 において肯定結果が得られた場合、又はステップ S 2 0 6 において否定結果が得られた場合にはステップ S 2 0 9 に進むことになるのであるが、このステップ S 2 0 9 においては、システムコントローラ 1 1 は、これまでの M D 9 0 に対する記録を停止させるための制御処理を実行する。つまり、現トラックと同一のトラック

は、74分以内に高速ダビングされているために、この現トラックの録音を禁止するように動作させるものである。